

倶楽部-Kounotori

発行人: 吉川文彦
編集: こうのとり相談室
2003.10.1 Vol.3

10月ー半袖から長袖へ衣更えの季節です

学生の制服に季節の変わり目を感じます。寒くなる時は急に寒くなるので衣類の調節が大変ですね。扇風機をしまったのに間もなくストーブの準備!?. しばらくは秋を感じて暮らしたいところです。♪秋の夜長を鳴き通すー皆さんのお家の近くではリンリンとやさしい虫達の声聞こえますか？



HEART to HEART

今回の特集のテーマは二人目不妊です。原稿もお一人ではなく三人の方に書いて頂きました。こうのとり外来に相談室ができて半年が過ぎようとしています。皆さんの悩みの1番はやはり治療に関する不安、その次は仕事との両立、そして3番目に多いのがこの二人目不妊という問題でした。相談室のスタッフはこの問題をテーマに掲げるにつき色々検討しました。こうのとり外来に通って来ている皆さんは、治療の立場や内容が異なっても"赤ちゃんが欲しい"という願いのために努力している基本的な姿勢はかわりはありません。それをこの紙面によって知って頂く事で、少し違う視点を感じて頂ければ幸いです。皆さんの心と心の交流の場としての**倶楽部-Kounotori**はこのテーマで3号を発行する事にしました。感想ご意見お待ちしております。

『二人目がほしい私達 ~二人目不妊~ 』

〈K・Aさんの場合〉



二人目に向けての不妊治療を開始したのは今年に入ってから。こう書くと、"一人いるからいいじゃん"という声や"何だ、まだ治療初めて半年も経ってないじゃん"という声が聞こえてきそうだが、実は一人目も先生を変え、病院を変え、治療を変え、諏訪マタで吉川先生と出会うまでに8年の歳月が流れている。そんな長い苦しみを経験しておいて、またその中にあえて入っていったのは、やはりどうしても"もう一人欲しい"と切に願ったからだ。欲?いえいえ、当然起きる感情でしょう。でもこれが周りにはなかなか受け入れられない。だから二人目不妊というのは表に出てこない。一人いる事はこの問題を随分難しくしていると思う。

私の場合年齢の事もあり一人目同様早くから体外受精の選択を決めた。しかし一人目でも二人目でも、やはり辛いものは辛い。妊娠不成立の結果を聞く度に体が二倍も重くなったような気落ち。どんなに心が重くてもまた明るいママを演じ、治療を内緒にしている義母に今日の外出の言い訳を考えながら、高速を飛ばしいつも通りの嫁の顔で家に帰る日々だった。

そんな思いで二人目に挑戦してきた半年だったが、ここであと2回の体外受精をして治療を辞める事を決めた。夫と何度も何度も話をし、そして決めた。不妊治療は出口の見えないトンネルであるのは確かだと思う。今まではたった一つの出口(妊娠という結果)しか考えられなかった。しかし子供を授かる事だけが出口では無いような気がしてきて、出口に我が子が立ってない、そんな出口もあるのだと考えが変わってきたのだ。不妊治療を続けてきた中で、家族について、夫婦について、社会制度

について真剣に考えられる時間を与えられた。同じ様な境遇の仲間との出会い、人を思いやる気持ちも随分以前より多くなった。孫の顔を見ずにして亡くなった父の死に遭った事でも、ことさら生命について深く思いをめぐらす事が出来た。これらの事、全て思えば私は不妊治療という体験を通して人間として大きな収穫があったと痛感するのだ。又、そんな事を考え外来に来た時に、この倶楽部-kounotoriを手にしとても感慨深く読ませてもらった。創刊号のYさんの文には、え~?!16年も治療、私の倍だ。Nさんの文では、判定結果を聞いた後に自分を奮い立たせるような所、うんうんわかるわかる! 新聞を読み終わった後には心が軽くなって、いつもよりやさしい自分になれていた。また感情的、打算的になりがちだった私の心の整理に大変役だったのが相談室であった。

この投稿は皆さんにも早くトンネルを出ましようという誘いのものでは決してない。私は私なりの出口を見つけたので出ることにしたのだが、本当にその苦しみ、悲しみ、痛みがわかるからこそ、これからも頑張っていく皆さんを心から応援したい。そう思っている。



〈Y・Sさんの場合〉

倶楽部-Kounotoriを毎回うなずきながら読んでいます。環境の違いはあれ不妊治療を受けているという共通点がそうさせているのでしょうか。実は私、4年目にして念願の赤ちゃんを抱くことが出来ました。長かったあ、と自分では思っているのですが、私以上に頑張っている方もいらっしゃるのでしょうか。しかし私もこの4年間に色々な辛い経験がありました。でも、兄弟っていいなあと以前から思っていたので、一人目を出産してすぐにこの子にも兄弟を・・・と年齢的な事もあり間隔をあけずに今2人目に挑戦中なのです。

"とりあえず一人いるからいいじゃない、一人いるから気が楽だよね"これを読みながらそう思った方もいる事でしょう。私も今の状態になるまでは多分そう思っていたと思います。でも実際には治療自体は何も変わらず、身体年齢は進みいつまで続けられるか時間との戦い。電話をかける時のドキドキ。結果がでるまでの何とも言えないあの時間。一人できたんだから・・・というプレッシャー。友達の妊娠を心から素直に喜んであげられない自分。そして先端治療を受けているにもかかわらず最終的には神頼み。一人目の時と何ら変わる事はありませんでした。

ただ変わった事は、諏訪マタで出産した私はスタッフの皆さんと顔見知りになり何かと話しかけたり話したりが増えた事。子供の世話に追われて安静なんて全くなかった事。言い換えれば今までの様に、気持ちが一点集中できなくなり気を紛らわす事が出来る様になったという事だと思います。それが周りの皆さんには気が楽そうに見えるのかも知れません。(資金には限りがあるし、気が楽になるところかますます苦しくなった)私は今までも、後悔だけはしたくない!そんな気持ちで我武者羅に頑張ってきました。その気持ちは今も変わりありません。

この先どうなるか見当もつきませんが、とりあえず2人、の目標達成を夢見てまだまだ頑張ります。でも私一人ではどうにもなりません。私を支えてくれている信頼のおける主人や、先生、スタッフの皆さん、もう少し私の夢にお付き合い下さい。



〈M・Eさんの場合〉

今回も又駄目でした。以前に比べると落ち込み方は少ない気がします。別の失敗が引き金になって急に涙が出たりします。本当に悲しくて悲しくてトイレに行っては泣いていたり、子供に対しても普段なら怒らない事でも怒っていたり、主人に対し

ても知らず知らず口調が強くなっていたり、自分が嫌になってしまいます。精神的な治療も必要なのやら・・・と思う程です。私は一人目も諏訪マタでお世話になり、一年以内に出来ました。その時はただ「赤ちゃんが欲しい。」とと思っていましたが、育てていくうちに「まだまだ欲しい。」と思う様になりました。一人目の様に軽く考えていましたが、一人目より時間が掛かっているの、焦りもあります。「一人いるから。」と人に言われてもなかなか割り切れず、仲良く遊んでいる兄弟を見ると「早く自分の子にも作ってあげたい。」と思います。そして何より自分も赤ちゃんが欲しいです。診察に行く時は子供をいつも実家に預ける訳にもいかないので、大抵は連れて行きます。しかしまだまだ言っている事が解る年ではないので、治療を待つ間騒いだりしてしまいます。そんな時は必ず後ろめたさを感じています。なるべく短時間で済む様早い時間に行ったりして、気を遣っているつもりなのですが・・・。そんな人がいる事だけでも分かって頂けたらな、と思います。きっとこれからもいっぱい落ち込んで、いっぱい泣くと思いますが、まだまだ頑張っていきたいです。

〈M・Eさん夫〉

そろそろ二人目をと考え始め早一年。一人目の不妊治療が比較的短期間で成功した為、今回も病院に行けばすぐ出来るだろうと安易に考えていました。実際2人目の治療を始めて半年、まだ良い結果は出ていません。結果が出るたびに妻は落ち込み、精神的な負担は相当の物だと思います。2人目の出産は我家族の希望ですが、妻あってのことあくまでも極論ですが、妻の肉体的、精神的な負担が大きすぎるなら考え直さなくてはと考えることもあります。

不妊治療において私の出来ることはあまり多くはないです、とにかく妻の精神的な負担を減らし、いつも前向きな気持ちでいられるよう励ますことぐらいかもしれません。良い結果を信じ、とにかく前向きに家族で取り組んできたいと思います。



ちょっとお茶でもいかがですか？
日頃皆さんの思っている事やつづやきをのせていくコーナーです。

🌸 K・Hさん 🌸

こうのとり相談室へ伺って、倶楽部-Kで皆さんのご意見を拝見しながら、長い治療を続けている自分の事、今後の事を考えるためにも一度は振り返って見なければと思っていた私。でも、振り返る事で"赤ちゃんを諦める"事につながるのではないかと不安になって出来ませんでした。創刊号の投稿のYさんの思いは状況は異なるとはいえ、悶々と治療を続けていた私の気持ちを楽にしてくれました。"内に籠もらずにリラックスしていいんだよ"と。最初の検査通院から13年になります。周りに同じ悩みを持つ友達もおらず、病院の待合室で座っていた時の不安は忘れることは出来ません。次から次へとステップアップしていく治療に自分の頭がついていかず、身体と心が自分のものではなくなってしまったように思った時もありました。コントロールの中でも成果が現れずに増えていく薬や注射。その様子を傍らでずっと見ていた主人が"もういいよ"と言った事さえありました。元々主人の方は子供が居なくても二人の関係に代わりがないのだからと言っていたのですが、思わず口に出たその言葉で衝突した事も。その後はずっと二人三脚でしたが、彼の協力なしには決して続けては来れなかっただろうと改めて思います。

体外受精しか望みがないと知り、それからは常に答えの出ない疑問が次から次へと沸いていました。"こうして一体いつま

で治療を続けるの?"赤ちゃんが欲しいと思うのは私のわがまま?"見えない不安に押しつぶされ段々と殻に閉じ籠もって行きました。そんな自分が嫌でした。でも、次の治療に入るのにはそれらの感情をリセットしてから出ないと望むことが出来ません。自分の気持ちを整理する事が1番大変な事だと思いました。

最初は治療に通っている事を親しい友達にも言えなかった私。でもこうして長い治療期間の中で自分の状態が口に出せた時、本当に楽になりました。社会では不妊治療への関心は低いと思われれます。その中で口を開くのは難しく勇気のいる事ですが自分の気持ちをわかってくれてる人の存在は辛い治療を続けていく上で大きな支えになっていきます。

こちらの病院で初めての体外受精を受けた時、早朝にもかかわらずこやかに準備を整えて下さる何人ものスタッフの方の様子を見ながら目頭が熱くなったことを今でも覚えています。"これだけ皆に見守ってもらっているのだから大丈夫だ"と。こうしたスタッフの方々との出会いも大きな励みとなっていました。何の気なしにかけられた一言で一気に回復、元気になった事も数えきれません。相談室の存在は、余計な心配をせずに治療に向き合える環境としてどんなに私達にとって心強いものかと思えます。

このようにやっと自分の中の振り返りをしてみて、あつと言う間の13年と言う反面、様々な光景が目に見え、当時の感情が今鮮明に蘇ってきています。しばらくぶりに開けたパンドラの箱、その中の一つ一つが今はとてもいとおしく感じます。こう思える様な私になったのも長い治療の成果なのでしょう。

相談室の
スタッフが



皆さんの質問に
お答えします

相談室での相談やメール相談の中から多いものを載せていくコーナーです。



Q:〈治療をステップアップする時期って?〉

A:タイミング療法をしていらっしゃる方々がいつまでこの治療を続けていくのかという質問がよくあります。ステップアップの時期についてはDrよりおすすめする事は基本的にはありません。ご夫婦で相談して決めて頂ければいいと思います。迷っているようでしたら、毎月行っている体外受精の説明会に参加して頂くといいかと思います。もし説明会に参加出来ないようでしたら相談室の午後の予約を取って相談にお出かけください。